



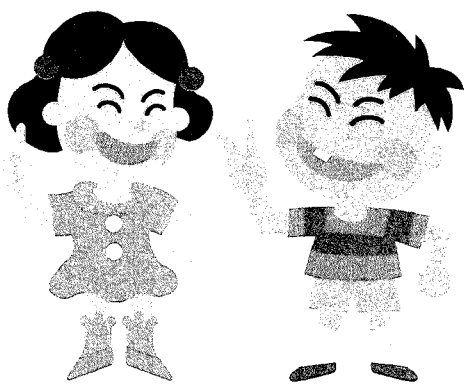
今日、子どもたちの友だち関係、生きた人間と人間との触れ合いが大変希薄になっています。

「触れ」とは、本来「広く人々に告げ知らせる」こと、触れ合いとは「気持ちの知らせ合い」であるといわれています。そのこと自体大人にもあまり認識されていない今日このごろです。

現在、「触れ合い」がなにかムード的なものになってしまっ、一緒にいるとか、ゲームをするとか、漫画を読むとか、当たり障りのない「おしゃべり」をするなどが普通になっていきます。そこには当然心と心の触れ合いという深いものはありません。子どもたちは、意識しないまでも心のどこかで、「こんなことはおかしい」と感じているようです。

ある中学生は、こんなことを言っています。「友だちと三人で遊んでいて、自分だけ先に帰ると、友だちが二人になったりすると、なにか自分の悪口を言っているように思ってしまう。なにか考えることがあってもトコトンまでは話さない。ムカッとしても、これ以上言ったら友だち関係が終わりにな

ると思うから、『ああ、ごめんごめん』と軽く言ってます。結構それで友だち関係を保っている。そんな浅い関係であるから、ちょっとしたことでも『あいつ、仲間はずれにしよう』となってしまう。それでも一人でいるよりましだから、そんな友だちでも遊ぶようにする。友だちとでも遊びたいは形だけ。友だちに嫌われるのが怖いから、本当の自分は見せない」



また、「友だちって、なにかわからないところがあつた方が、面白いかもしれない。人間というのは全部知りつくしたらそれ以上にもなくなる。だから相手の本音はわからなくてもいい。自分の本音を知られたら嫌われるかもしれないし、悩みをうち明けたら、うち明けられたりはしない。それで

いい……」とわかつたようなことを言う子どもが増えている。

親や友だちに暴力をふるう子どもにも、なぜ自分を抑えられなかったのかと聞くと「友だちの中に、相手があやまつているのに暴力をふるう奴がいる。僕は、それが悪いことと思いつながら『やめろ』と言えない。言えば、皆からバカにされる。僕は、そんな自分にイライラする。そのイライラを外にだすのは、やつぱり、単純に『ものを壊す』とか、『なにかに物を投げつける』とかしかないと。そんなとき相手の気持ちなんか考える余裕はない。相手の人間味に期待できなくなってしまう。結局、自分を受け入れてくれる場所がない」

この子らが、暗に訴えているのは、もつと人生を語りたい、もつと生きる意味を語り合いたいというのではないでしようか。自分なりに自分の人生観、人間観を持ちたいという人間としての基本的な欲求が、そこに横たわっていると思われまふ。そして、それは現在の「進学中心の忙しい学校」では得られないと思つていて、不満のタネになつていようです。なにをどうすればいいのかわからない不満が子どもたちの心の底によごんでいるのではないかと思つます。それは、いまの大人にも、人生観がなくなつていようという不満でもあるように感じられます。

伝言板

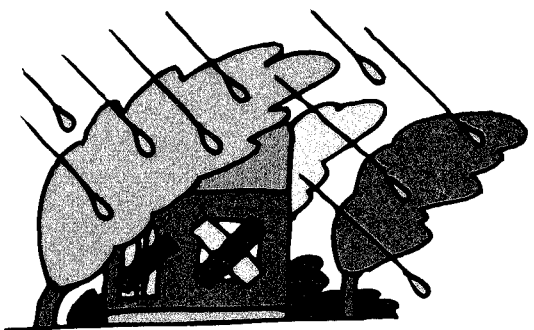
大月保健所

大月市大月町花咲1608-3
☎(22) 7824

大規模災害が 発生したら……

そのときは、山梨県地域防災計画に基づき、山梨県災害対策本部(医療救護対策本部)が設置されます。これに伴い、大月保健所に東部地区医療救護対策本部を設置します。

地区本部では、関係機関・団体などと連携を取りながら情報を収集し、医薬品など必要物資を確保するとともに、あらかじめ編成されている医師会と自治体病院による医療救護班が医療救護活動を行います。



難病相談について

原因がわからない、治療方法が確立していない、また後遺症を残すおそれが少なくない病気をいわれる難病といえます。このような病気の多くは慢性に経過するため、単に経済的な問題だけでなく、介護などによる家族の負担は計りしれないものがあります。「病気のことがよくわからない」「緊急時が不安だ」「日常生活の過ごし方がわからない」「同じ病気の人を介護の方法がわからない」「福祉サービスについて知りたい」など一人ですみずにお気軽にご相談ください。また、患者・家族の医療費の負担の軽減を図るため、医療保険の自己負担分を一部公費で負担する制度があります。現在は対象となる疾患は四十三疾患です。詳しくは、主治医とご相談の上、大月保健所までお問い合わせください。

休日や夜間に身体の具合が悪くなつたら……

そんなときのために、医師会・自治体・関係機関が協力して休日や夜間の当番医を決め、その日の当番医が対応しています。救急車を必要としないような病気やケガの場合は、当番医をお調べのうえ受診してください。当番医のお問い合わせは、
救急医療情報センター
☎055(224)4199
都留市消防本部☎(43)2341